

さらだ殺人事件

作：別役 実 演出：富永浩至
出演：富永浩至、坪井志展、清水 匠、
小澤 巖



illustration:
アイリス・ニック・クロウ

舞台中央に、古びた仏壇と茶だんす。
その前にちゃぶ台。汚い座蒲団がいくつか。
虚空からすすけたカサのついた電灯がひとつ。
喪服姿の男1と女1が、ぼんやり現われる……

昨年、帯広で上演し、好評だった作品を更に練り直しての再演。
劇団演研、8年振りの札幌公演。乞うご期待！



と き： 2024年5月25日(土) 午後7時開演
26日(日) 午後1時開演

※各回とも開演30分前受付開始、20分前開場

と ころ： 扇谷記念スタジオ・シアターZOO (☎011-551-0909)

一般前売 2,000円 一般当日 2,500円 学生 1,000円

問い合わせ：劇団演研 ☎080-3266-0279 e-mail:enken@gotohp.jp

詳しくは当劇団サイトから



主催：劇団演研、北海道演劇財団、NPO 法人札幌座くらぶ

制作協力：ダブルス



ご注意とお願い

- ◆ 会場には駐車場はございません。公共の交通機関または、お近くの有料駐車場をご利用ください。
- ◆ 開演後の入場は出来ませんので、開演時間には十分ご注意ください。席数僅少のため、チケット完売・満席の際は当日券はありません。早めのご予約をお勧めします。

☆公演アンケートより (写真：大久保真)

○普通じゃない普通を覗き見しながら、だんだんと色々分かっていくのが面白かった。(10代女性)



- お芝居にひき込まれてあっという間の90分でした。(30代女性)
- ドキドキした。いろいろ考えさせながら観ました。(30代女性)

- 全員がずっと不思議でした。何者か分からない感じが面白かった。(20代女性)
- 皆さんキャラが立っていて、最後まで楽しく観れた。(20代男性)



- 何とも言えない微妙な空気感がとても良かった。(40代男性)
- 死ななければならなかった理由があった…のだろうか。(50代女性)
- ちょっと考えさせられ、切なさが残りました。(60代女性)



上演にあたって

富永浩至

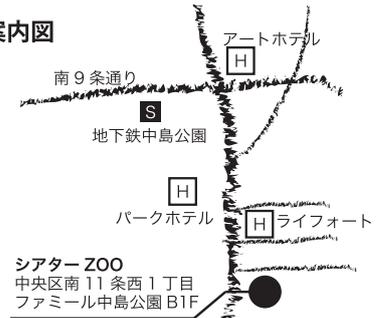
もう三十年くらい前になりますが、このお芝居の初演を東京の信濃町にある文学座のアトリエで観ました。男1は角野卓造。仏壇の裏から這い出してくるその姿に、いたく感銘を受けたことを覚えています。

上演が決まり、当時のチラシを参考までにと取り出してみました。その裏面には新聞記事が載っていて、見出しに「サラダ殺人」とありました。夫婦喧嘩の末に妻が夫を包丁で刺し殺したという事件で「正子が岡山さんにサラダ三パックの買い物を頼んだが、一パックしか買ってこなかったため夫婦げんかとなった。」と、なにやら出来の悪いフィクションのようでした。まさに事実は小説よりも奇なりです。

別役実はこの事件から着想を得て、この物語を紡ぎ出したのでしょう。ちなみにそのチラシには「なお、この舞台とこの事件はほぼ関係がありません。」と注意書きがありました。

さて、8年振り6回目の札幌公演となります。今回もまた、多くのお客様との出会いの中から、たくさんの刺激をいただけることを楽しみに稽古を重ねております。みなさま、お誘い合わせの上、お運びくださいますよう、演研一同、心よりお待ち申しております。

会場案内図



チケットのお求めは

- エヌチケ (<https://ticket.aserv.jp/nt/>)
- ローソンチケット (Lコード：12533)

販売ページ： <https://l-tike.com/order/?gLcode=12533>

- チケットぴあ (Pコード：525-888)
- 道新プレイガイド / 交流センター /

セコマコード：D24052504 (販売期間：3/31 ~ 5/18)



チケットの公演当日 会場受け取りで 各種手数料無料で買える!

劇団演研プロフィール

1975年に帯広で旗揚げ。創立当初から小劇場演劇をめざし、1980年から喫茶大通茶館を拠点に、1990年からは民家を改造した「演研芝居小屋」で、そして2007年からは自前のアトリエ「演研・茶館工房」を拠点に春と秋、年2回の公演を続けている。

1993年「帯広市文化奨励賞」、2009年「十勝文化賞奨励賞」、2011年「帯広市民劇場賞」、2019年「平成30年度北海道地域文化選奨特別賞」、2023年に「十勝文化団体協議会文化賞」をそれぞれ受賞。2000年に平田オリザ氏に新作書き下ろし「隣にいても一人」の提供をうける。また、2005年には鐘下辰男氏に新作書き下ろしの提供を受け、話題となった。